

豊田市消防ビジョン～第 4 次豊田市消防整備基本計画～（案）
パブリックコメントの実施結果について

- 【実施期間】 令和 6 年 8 月 1 日（木）～8 月 31 日（土）
（E モニター令和 6 年 8 月 15 日（木）～8 月 24 日（土））
- 【閲覧場所】 消防本部総務課、各消防署管理課、市政情報コーナー、各支所・出張所、各交流館、ホームページ
- 【提出方法】 持参、郵送、ファクス、E メール（E モニター含む。）
- 【提出数】 45 通（E モニター45 通）
- 【意見数】 計画案に対する意見 63 件（1 人の意見に複数項目含まれている場合は分けて整理）
E モニターにて実施したアンケートに対する回答 186 件

◆ 提出された意見とそれに対する市の考え

次ページ以降に、いただいた意見等と市の考えを示します。意見等の概要は、主旨を損なわない範囲でいただいた意見を集約及び要約しています。また、賛否の結論だけを示した意見や今回の計画と直接関係がない意見等（その他感想等）については、市の考え方は示していません。

1 計画案に対して寄せられた意見分類と件数

項目	番号	意見分類	件数
計画全般に関すること	①	目標の設定時期	1
	②	計画全般	2
	③	市民への周知	8
	④	予算	1
分野別の取組等に関すること	⑤	地域等との連携	3
	⑥	消防団	10
	⑦	めざす消防力	8
	⑧	救急	4
	⑨	予防	7
	⑩	消防体制	9
	⑪	職員育成	1
その他	⑫	感想等	9
合計			63

(1) 意見① 目標の設定時期 1件

No.	内容
1	目標の設定時期が2040年になっているのは、どのような経緯で決めているのかわからない。

意見①に対する回答

- ・当市では少子高齢化をはじめとした人口減少局面が進展しており、2040年に高齢化率が30パーセントを超え、消防職においても60歳以上の消防職員数が最大になる見込みです。気候変動の影響により激甚化・頻発化する風水害や切迫する大規模地震、さらに、デジタルトランスフォーメーションの加速、生成AI等の技術革新の進展はめまぐるしいスピードで変化することが予測されています。変化が速く、多様で予測不能な時代において、より柔軟で最適な消防行政の推進に取り組む必要があることから、中長期的なビジョンとして示す基本構想では2040年を目標年次とします。

(2) 意見② 計画全般 2件

No.	内容
1	もっと具体的な施策を打ち出すべきである。
2	理想は理解できたが、実現性がどのくらいあるのか疑問である。

意見②に対する回答

- ・基本構想に掲げた将来消防像、めざす消防力及びめざすまちの姿の実現に向けて、今後10年間で進める取組を「施策」及び「取組事業」として具体的に示してまいります。
- ・変化が激しい予測困難な社会の中でも基本構想に掲げるめざす姿を実現するために、社会環境の変化を受け入れながら、常に「施策」や「取組事業」の見直しを図り、実現性を高めていきます。

(3) 意見③ 市民への周知 8件

No.	内容
1	消防の計画が理解しにくい。市民にとって大切な行政であるが、市民の大多数が身近に感じていないと思う。例えば、各地域でのイベントに積極的に参加していくなど、説明を尽くすことが必要である。地域の消防に対する取り組みが、大切なのに、啓蒙活動が不足していると思う。
2	全ての人が理解出来るか疑問である。
3	最後のページについては理解しにくく感じた。
4	前期実践計画の施策・取組事業について、施策と取組事業がどのように結びつくのかわからない。例えば、「消防団員の確保」に対する取組で、「女性団員の活躍推進」は分かるが、「機能別団員制度の拡充」を行ったことでなぜ消防団員の確保につながるのか、分かりにくい。
5	全体的に、もう少し市民にとって何がどのように変わるのかを具体的に示してほしいと思った。

6	抽象的過ぎでわかりにくい。やさしい日本語で書いて欲しい。お役所言葉は読みづらい。
7	災害を未然に防ぐ対応策を周知し消防のパワーを軽減出来るような活動を期待している。
8	実態が市民にはわかりにくい。

意見③に対する回答

- ・本計画をよりわかりやすくするため計画の要点をまとめた概要版を作成するとともに、市ホームページへ掲載し、広く市民の皆様に周知を図っていきます。
- ・消防という分野については、市民の皆様に知っていただくことが大変重要であると考えています。効果的な情報発信の方法について、引き続き検討していきます。
- ・本計画では、実践計画として具体的な取組を「施策」「取組事業」と位置づけます。「取組事業」を推進することで「施策」の成果につながることを、市民の皆様に分かりやすく説明していきます。

(4) 意見④ 予算 1件

No.	内容
1	計画に記載されている予算が、実際の整備に必要な金額を満たしていない可能性はないか。

意見④に対する回答

- ・本計画の取組事業は、本市として重点的に取り組む事業です。そのため、事業の推進に必要な予算については優先的に確保するよう努めていきます。

(5) 意見⑤ 地域等との連携 3件

No.	内容
1	先日の南海トラフ騒動では、スーパーの水が一時無くなった。各家庭での非常食対応などバラツキがあると思われ、公的な備蓄はどうなっているのかと思った。もしもの時には、一部地域の問題ではないので、他の都道府県、特に近隣県・市などとの連携も重要だと感じる。
2	各地の自然災害時にも、消防は要で頼りにしている。市民、地域も協力しながら災害に強い街に豊田がなれば良いと思う。
3	救助体制等については、公共施設、職員に頼るのではなく、まずは自分たちが自分たちの手で最高にできる処置等を学ばせることが大事だと思う。そしてその人たちを地域に配置するのではなく、地域の方々と育成するような取り組みが欲しい。

意見⑤に対する回答

- ・大規模災害発生時に迅速かつ円滑に対応するため、市長部局・他市消防本部等関係機関との協力体制を深化させ、災害発生直後から受援に至るまでの体制を強化していきます。
- ・自助・共助・公助が一体となり、消防団を中核とした地域の防災活動を担う多様な主体が相互に連携協力した、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

(6) 意見⑥ 消防団 10 件

No.	内容
1	男女問わず若者が入りたいと思う消防団ができれば良い。大学のサークルのように気軽に、でも本質から外れることのないよう取組むことで、身近に消防に触れる人材と機会を増やせると良い。
2	人材不足解消のためにも、賃金上昇やメンタルヘルス対応など仕事のモチベーションがアップするようなバックアップがあれば、やりがいのある仕事として続けられるのではと思う。
3	消防団については、防災対応などは無理だと思う。相当以前から明らかになっていることでもあり、「消防」からは完全に分離すべき問題だと思う。
4	消防団員が減少傾向にあること、年齢も上昇傾向にあることを理解した。現在のわたしたちを取り巻く環境では、致し方ないとも思うが、市民、特に若い人にとって消防団員が敷居が低いものになると良い。そのためには、男性でも育児休暇を取得できる環境にあることや、民間会社にあるようなデジタル化がすすんでいることが必要かな、と思う。また、そのことを、アピールして市民に知ってもらうことも必要だと思う。また、団員になることで、幅広い世代と知り合うことが出来て、人脈が増えること、心が豊かになること等、団員としてのメリットというよりも、人としてのメリットについてアピールすることも大切かな、と思う。消防団が子供たちの憧れの的存在になると、将来、団員になる人も増えるのではないかな。
5	人数だけを増やすのではなく力になる消防団員を増やす努力が必要である。
6	人員の確保の為に、どんな関わりが出来るのか広く市民に伝えて欲しい。消防団というと体格のいい選ばれた人にしか出来ないイメージがあるが、女性も活躍できるしどんな職種があるのかアピールすればより多くの人々がチャレンジすると思う。
7	社会人だと仕事が忙しくて参加しなくなるので、学生のうちから活動に参加したい人を各学校で募る。
8	ボランティアに頼るには限界がある。
9	消防団の存在意義がわかりにくい。
10	報酬の低さ、職場の無理解等、そもそも消防団に参加する動機付けが旧態依然としたままでは消防団員の減少は食い止められないと感じる。

意見⑥に対する回答

- ・消防団主体の検討会（消防団運営のあり方検討委員会）を開催し、時代に即した消防団活動となるように事業、イベント等の見直しを実施することで、消防団員がやりがいを持って活動を行えるようにしていきます。
- ・地域の防災力を維持するため、災害支援機能別団員制度の拡充や消防団の新たな分野での活躍機会の検討を行い、消防団員の知識・技能を活かせる体制を構築していきます。
- ・幅広い世代や女性への入団促進、活動環境の整備や消防団活動の効率化など、持続可能な消防団運営に必要な体制を整備します。

(7) 意見⑦ めざす消防力 8 件

No.	内容
1	消防隊員や消防団員の具体的な目標設定値がなく、「適切な」という表現もわからない。背景として人口問題、消防団員の減少などがあることは理解している。また、技術の進歩・GXなどで少人数での活動が進むとの考え方もあるので、そうなっているのかと推測している。
2	現状は定量的だが 2040 年に向けた考え方は定性的過ぎる。理想と数字があっても良いと思う。
3	2040 年には自分も定年間近で、自分の老後・成人することの生活へと意識を変えていく時期のため立場が変わる時期について考えることができると思った。目指すべき消防力のページで 2040 年までにどのような形にしたいか、現在はどの状態かが定量的に表現されていて良かった。
4	消防のありがたみは、平時にはなかなか実感できないが、自然災害の甚大化が叫ばれる今、将来を見据えた消防力の強化を計画的に進めるべきと強く思う。
5	めざす消防力の欄に現状値と考え方が書いてあるが、数値だけ書かれていてもその数値が優れているのか劣っているのかがわからない。
6	消防力が不十分であると安心して生活出来ないので、計画をぜひ実行して欲しい。
7	少子高齢化と消防力もつながっていると感じる。望まない孤独や孤立という課題は地域だけでなく社会全体の課題だと思う。それぞれの境遇が認められ、誰ひとり取り残さない社会、お互い様、感謝の心がいつもあれば世界は平和になると思う。苦しんでいたり困っていてもなかなかうまく声をあげられない人もいて、家庭環境等の背景等、必要な場所にちゃんと手が差しのべられる誰もが幸せを感じられる社会を望む。
8	高齢者が、多いことを思うと消防力が大きいに越したことはないと思う。

意見⑦に対する回答

- ・めざす消防力は、本市消防行政における将来の姿と進むべき方向性を明確にする『羅針盤』として位置づける基本構想の一つです。そのため、数値ではなく現状値を基準としながら具体的な方向性を示す「2040 年に向けた考え方」とします。
- ・消防業務を確実に遂行し、消防の責任を十分に果たすために、人員、施設・機械及び水利といった消防力の充実強化を図っていきます。

(8) 意見⑧ 救急 4 件

No.	内容
1	救急出動件数と搬送人員の増加傾向が、高齢化の進展や気候変動の影響による増加を上回っているような気がする。巷間で話題になっているような目的外利用が増えているのではないだろうか。
2	本当に命の危険な人を助けるために、救急車を依頼するか判断に迷う人は事前に相談できる電話番号を全世帯に普及させるべきだと思う。

3	子供や周りの方が呼吸困難になり救急車を呼んだことがあるが、病院に運ばれた時には落ち着いた事があり、どのタイミングで呼んだ方が良いか迷うことがある。こちらとしては、緊急と思うが、医療従事者の方側からみるとそうではなさそうな事もあり、救急車を呼ぶ前に豊田 24 時コールに電話をかけて判断の相談もした事があるが、上手く伝えられない事もある。ビデオ電話での問い合わせが出来るようになれば、より良いのかなと思う。
4	高齢者の方が寂しくて…、1 人暮らしで心配になって…、とニュースなどで聞いた事もある。担当の方に繋がります…という形で相談窓口などに転送出来たりすれば、救急系の負担が減るのかなと思う。

意見⑧に対する回答

- ・救急車の適時・適切な利用の推進と緊急時の円滑な救急要請のため、市民に 119 番通報方法を周知し、対象者に応じた効果的な広報や講座等を開催することで、市民の救急情勢に対する理解を促進していきます。
- ・適時・適切な救急医療の提供を実現するため、他部局や医療機関といった関係機関と連携を図っていきます。
- ・本市では、動画による 119 番通報システム（スマートフォンからの 119 番通報時に映像通話を併せて利用するシステム）を令和 3 年 4 月 30 日から運用しています。災害の状況を指令室で正確に把握し、その情報を出動隊と共有して、安全で円滑な現場活動に役立てるために、当該システムの利用について、引き続き周知を図っていきます。

（9）意見⑨ 予防 7 件

No.	内容
1	実際に消火器の使い方の説明や、操作してみることができる場所があれば良い。
2	市民みんなが防火に取組み、住宅から火災を 1 件も発生させない大切さが重要である。
3	高齢者への日頃の声かけ、福祉事業との連携の強化、これからも市民みんなが地域を守り安心安全な生活を真摯に努めるべきと思う。
4	火災は防げるものだと思うのでもっともっと予防に力を入れると良い。
5	これから若者の人口が減り消防職員の数も減ってくる中で自分のことは自分で守れるように市民ひとりひとりの防災意識を高めること、市としてはその啓発活動も大事だと思う。
6	全市民に対して火事を出さない啓蒙活動を行う事が大切である。
7	先日、消防署にて色々と体験し、そこで、特に地震の怖さを知った。帰宅後、数日で大地震注意報が出たので、直ぐに防災の事を考え、自分に出来る限りのことをしている。疑似体験は、全ての人が経験すると良いと思うので、是非、呼びかけを沢山して頂きたい。

意見⑨に対する回答

- ・市民が最新の防火防災について学ぶことができるように、近年の災害状況や市民の関心度を鑑み、防災学習センターの体験施設に関する設備更新や利用促進を図るソフト事業の取組を実施し、市民の防火防災意識の向上を図っていきます。

(10) 意見⑩ 消防体制 9件

No.	内容
1	過疎化等の人口の変動によって、消防隊員の配置が地域ごとの需要に応じなくなる可能性はないか。
2	気候変動が大きくなり、想定している以上の災害が起こり、実際の緊急事態に対応できない可能性はないか。
3	住民の安全・安心を守ってくれる消防署や消防団などは重要な職務である。その消防職員や消防団員がいざという時に動きやすい体制が必要だと思う。
4	人員を確保するために何をするのが不明確である。具体的な対策を提示した上での計画が知りたい。
5	少子化になるとこのようなお仕事を支えるひとの数も減ってしまうのではないかと危機感がある。家族が数回救急車で運ばれた時、隊員さんの適切な処置で助かった。その活躍を見た若いひとが参加し、後世に続くように活動してほしい。
6	若手の育成が必要である。
7	救急や消防職員の待遇をよくして、安全で働きやすい組織にしてほしい。
8	少子化のツケがあらゆる所で出てきて深刻な問題になっている事を知った。テレビで育児中のママさんが臨時救急隊員のような短時間の勤務で復帰されている紹介があり、以前であれば両立が難しい勤務で退職されていたのが、各家庭の生活に合わせて少しずつ柔軟に対応出来るように色々な所でなっているようなので、男女共に子育てしやすい職場環境で細く長く途切れる事なく働けると良いのかと感じた。
9	一般市民の私達よりもまずは、現場の方達に細かなアンケートなどを取り、声を聞くのが1番だと思う。

意見⑩に対する回答

- ・激甚化・頻発化・多様化するあらゆる災害に備えて、消防活動に必要な人員、施設・機械、水利の整備を万全にするとともに、高度な知識・技能を持つ人材を育成し、関係機関との連携を深めていきます。
- ・消防業務遂行に必要な人材の確保に向けて、消防の事務の効率化を図り、ワークライフバランスを充実させ、職員個人の価値観を尊重する良好な職場環境を形成することで、職員一人ひとりのモチベーションを向上させ、魅力ある組織体制を構築していきます。

(11) 意見⑪ 職員育成 1件

No.	内容
1	高度で質の高い人材育成の成果指標が高度で専門的な教育訓練の受講数（消防職員一人あたり）となっているが、受講数だけではなく、質の向上も（教育訓練の理解度・習得度）考慮していただきたい。

意見⑪に対する回答

- ・既存の消防職員研修計画に基づく各種研修、シンポジウム、学会等への派遣の必要性や運用方法の見直しを行い、高度で質の高い人材育成に繋がる新たな研修計画を策定していきます。

(12) 意見⑫ 感想等 9件

No.	内容
1	炎天下でも地域のお祭や市の大規模イベント等にも対応してくださり、安全に過ごすことができることを感謝している。
2	相当に先のことであり現在の自分の知能では、はっきりとした意見が出ない。
3	大変だとは思いますが頑張ってください。
4	生産人口減少、老年人口増加、消防団員平均年齢上昇を認識する事が出来た。
5	消防の方々、この夏は特に忙しいと思う。いつも本当にありがとうございます。
6	消防署の皆さんには日頃から万が一に備えての訓練ご苦労さまです。そしてありがとうございます。これからも安心して暮らせる今まで通りの消防力を期待しています。
7	消防団の仕事は大変だと思いますが、私達は助かっています。ありがとう。
8	救急車で搬送されたことがあるが、救急隊員の丁寧な対応にありがたく思っている。これからも患者に寄り添って安心できる救急隊員でいてもらいたい。
9	救急車を依頼したことは何度かあり、いつも丁寧に対応していただき感謝している。救急隊員の不足や救急依頼が多くなって、大変だと聞く。有料になるところがあるとも聞く。有料になるのも仕方ないことかなと思う。

意見⑫に対する回答

- ・ご意見ありがとうございました。

2 E モニターアンケート結果

(1) 豊田市の消防・救急体制について関心をお持ちですか？（n = 186）

選択肢	件数
関心がある	66
どちらかと言えば関心がある	101
どちらかと言えば関心がない	18
関心がない	1

(2) 豊田市の消防・救急体制に対する満足度をお聞かせください。(n = 186)

選択肢	件数
満足度は高い	26
どちらかと言えば満足度は高い	87
どちらかと言えば満足度は低い	3
満足度は低い	0
分からない	70

どのようなことに満足していないかご意見をお聞かせください。 3件

No.	内容
1	夜間や早朝に救急車のサイレンで家族が起こされることが多い。
2	どんな仕組みになっているのか、周知されていない。
3	発信が少ない。

(3) 豊田市の消防・救急体制において、更に力を入れるべきだと思う事項を教えてください。

【複数回答可】(n = 186)

選択肢	件数
全国で発生しているような自然災害（大規模地震や土砂・風水害等）への対策	117
高齢化の進展などにより増加が見込まれている救急需要への対策	89
火災による高齢者の死者数を減らすこと	22
地域防災力の中核を担う消防団員を確保すること	38
施設（消防署など）、水利（消火栓など）、消防車両及び人員（消防職員や消防団員）などの整備	62
災害対応体制を万全にするために消防職員の職場環境の整備	69

(4) 豊田市の「消防力」について、最も整備してほしい事項は何ですか？(n = 186)

選択肢	件数
消防職員（人数や質の向上）	81
消防団員（人数や質の向上）	24
施設（消防署）	19
消防車両（消防車や救急車）	39
消防水利（消火栓や防火水槽）	18
その他	5

- (5) 将来消防像「ミライへつなぐ 安心して暮らせる消防力のあるまち」について、どう思いますか？（n = 186）

選択肢	件数
分かりやすい	35
どちらかと言えば分かりやすい	110
どちらかと言えば分かりにくい	14
分かりにくい	7
分からない	20

どのような点が分かりにくいかご意見をお聞かせください。 15 件

No.	内容
1	未来へつなぐ が消防と結びつかずわかりにくい。
2	スローガンが言葉として弱い、また消防力とは、どんな意味か不明である。
3	豊田市では「ミライ」という言葉を多用するが、そもそもこれが分かりにくい。
4	込められた思いが伝わらない。
5	記載されている内容が抽象的すぎて具体的に何がどう変わるのか分かりにくい。
6	消防力という言葉をつだん使わないから、ピンとこない。
7	現実的に身近で消防に関わることが少ないので、現実性が少ない。
8	イメージのみである。
9	「消防力」という言葉が普段聞きなれないので、初見で見た人は何を意味しているのか分かりにくいのではないかと思う。
10	もっともだが内容が不明である。
11	消防力が良くわからない。
12	消防力がある、とは何を指しているのかが分かりにくく、範囲が広く抽象的で具体的なイメージが浮かばない。
13	消防力という言葉がピンとこない。
14	少し長いと感じる「安心して暮らせる」は無くてもいいのではないか。
15	消防力というのがどういうものかよくわからない。

意見に対する回答

- ・将来消防像における「消防力」は、市民、地域、企業、行政のそれぞれが保有する『人員』、『施設・機械』、『水利』などを意味します。
- ・「ミライ」は、本計画を通じ、現状の延長線上の将来を受け入れるのではなく、自らの行動で新しい将来を築き上げるというニュアンスを表現するため、漢字の「未来」ではなく、カタカナの「ミライ」と表現しています。
- ・災害時はもとより、平常時から安心を提供できる消防体制を備えるとともに、未来を見据え、次世代につなぐという向上心を持った消防像として設定しました。子ども・若者をはじめとした各世代の市民が将来にわたり安心できる消防力を備えたまちを目指します。